



治療の選択肢が広がっている

腰部脊柱管狭窄症

腰痛や下肢の痛み、しびれなどを症状とする病気の二つに腰部脊柱管狭窄症があります。長い距離が歩けなくなるなど、生活の質を落とす疾患の原因や症状、治療法について聞きました。



成尾整形外科病院 理事長 院長
成尾 政一郎氏
PROFILE
1995年久留米大学医学部卒業。熊本大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。天草中央総合病院、熊本中央病院、熊本大学医学部附属病院、熊本労災病院勤務を経て2004年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医

前かがみで休むと再び歩ける「間欠跛行」が特徴的

—腰部脊柱管狭窄症とは。

成尾 背骨の中の神経の通り道である脊柱管が加齢とともに狭くなり、神経を圧迫するために起こる病気です。関節や靭帯が肥厚して神経やその周りにある血管を圧迫するために、下肢の痛みやしびれ、脱力により歩行が困難になります。特徴的なのは、歩いていると足が痛くなったりしびれたりして歩けなくなるけれど、前かがみでしばらく休むとまた歩けるようになる「間欠跛行」と呼ばれる症状です。中には血管性の下肢痛(閉塞性動脈硬化症)の場合もあるので、きちんと鑑別する必要があります。背中を伸ばすと脊柱管がより狭くなり、体を前に曲げると脊柱管



体に負担の少ない内視鏡や顕微鏡による低侵襲手術も

—手術が必要なこともありますか。

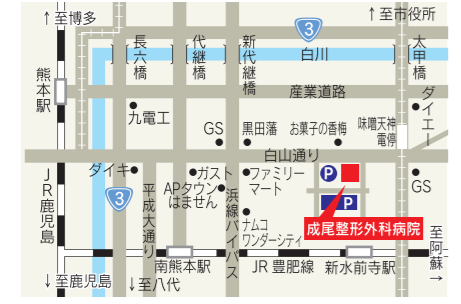
成尾 保存的治療を2〜3カ月続けても改善が見られず、日常生活に支障があるときには手術を検討します。神経の圧迫が強い場合、下肢の動きが悪くなる運動麻痺や排尿・排便障害が現れることがあります。そういった場合は保存治療による改善は難しく、早めに手術を行う必要があります。手術は、背骨の後ろ側にある椎弓や椎間関節、靭帯の一部を削って、脊柱管を広げ、神経の圧迫を取り除きます。内視鏡や顕微鏡による手術では傷も小さく、痛みも小さくて済むことが多く、早期の社会復帰が可能です。最近はこのような患者さんに負担の少ない

(低侵襲)手術ができるようになっていきました。十分に医師から説明を聞いてください。一般的には手術翌日からリハビリを開始し、数日以内に歩けます。入院は2〜3週間程度です。ストレッチや筋力増強のための指導など、手術後のリハビリは重要です。

—治療に向けて、大事なことは何でしょうか。
成尾 脊柱管狭窄症だからといって、必ず手術しなければならないわけではないので、必ずしも保存的治療で十分効果が上がらないこともありません。大事なことは、自覚症状があつたら早めに整形外科を受診し、診断・治療を受けることです。痛みを我慢してきた期間が長くなれば、それだけ治りにくくなります。治れば、日常生活はもちろんです。旅行など外出も楽しめ、生活の質を高めることができます。

医療法人社団 誠療会
成尾整形外科病院
理事長 院長 成尾 政一郎

【診療科目】
◎整形外科 ◎リハビリテーション科
◎リウマチ科 ◎麻酔科(野上俊光) ◎漢方内科
【診療日】
月曜日～土曜日
※土曜日は午前からの診療です。
【診療時間】
平日/9:00~17:30、土曜/9:00~12:30
※外来受診は予約制となります
※事前にお電話でのご予約をお願いいたします。
【休診日】
日曜日、祝日、土曜日午後、年末年始



〒862-0958 熊本市中央区岡田町12-24(白山通り)
TEL 096-371-1188(代表)
<http://naruoseikei.com/>
成尾整形外科 検索